

## 獣医師通信

いよいよ秋も深まり、朝晩には肌寒さを感じる季節となりました。この時期は気温の変化だけでなく、台風による気圧の変化も起こりやすい季節になります。気温だけでなく気圧の変化でもワンちゃんネコちゃんの体調に影響することがあるため、些細な変化でも何かありましたらご相談下さい。

## 看護師通信

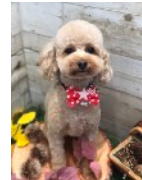
秋の味覚がおいしい季節になりました。なかにはワンちゃん、ネコちゃんは食べてはいけないものもあるので注意しながら肥満に気をつけて一緒に秋を楽しみましょう。

## トリマー通信

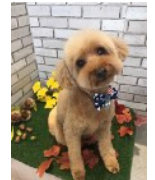
9.10月はシルク泡パックのセットです。シルクアミノ酸をたっぷりを使用したパックが皮膚を清潔に保ち、被毛にハリを与え、フワフワで柔らかくボリュームアップに仕上げてくれます。刺激が少なく、敏感肌のワンちゃんにも安心してお使い頂けます。乾燥が気になる季節になりますね。皮膚内部から保湿力を高めて、乾燥や肌荒れ、静電気を防ぎ、皮膚や被毛のケアをしてあげましょう。



宮崎もちくん



橋本ナナちゃん



小林クレアくん

## 獣医師コラム

### SDMAについて

SDMAは腎機能を評価するための項目であり、日本では2016年7月からIDEXXで検査されるようになった血液検査項目です。従来の血液検査項目Cre(クレアチニン)だけでは、腎臓の75%以上の機能が失われていないと異常値は認められませんが、SDMAは腎機能の異常を早期に発見できるとされています。Creと比べてSDMAは犬だと9.8ヶ月、猫だと17ヶ月早く腎臓病を発見できると言われています。

SDMAとは、対象性ジメチルアルギニンの略であり、アミノ酸の一種であるアルギニンがメチル化したものです。血液中に放出されたSDMAは、ほとんどが腎臓でろ過され、尿中に放出されます。腎臓の機能は腎臓での血液のろ過量と同等であることから、本来ろ過されるはずのものが血液中に多いことは腎臓の機能が低下していることを表します。また、Creは筋肉量に影響を受けやすく、慢性腎不全で食欲が落ちて体重が落ちた子とかでは病態を過小評価したりすることもあるので、SDMAの方がCreよりも腎機能を適切に評価できます。

臨床の現場でSDMAは慢性腎臓病のステージ分類の一環で使用されます。慢性腎臓病のステージ分類でよく使われるのがIRIS分類です。IRISとは犬猫の腎臓病に対する診断、理解、治療方法を向上させること目標に活動している団体で、日本では国際獣医腎臓病研究グループと呼ばれています。下図にIRISのステージ分類を載せています。今回は分類の所だけを抜粋させてもらっています。慢性腎臓病の治療内容は獣医師と相談しながら進めていくのが一番よいと思われます。参考までにIRISの慢性腎臓病の診断とステージ分類および治療内容が書かれているサイトのURLを載せておきます。気になる人は是非、調べてみて下さい。

URL <https://www.idexx.co.jp/ja/veterinary/reference-laboratories/sdma/sdma-iris/>

参考文献 IRIS CKD ガイドライン

	ステージ1 (クレアチニン正常範囲内) 軽度の腎臓病	ステージ2 軽度の腎臓病血症 (クレアチニン正常範囲内〜 やや高値)	ステージ3 中程度の腎臓病血症	ステージ4 重度の腎臓病血症
クレアチニン (mg/dL)	< 1.4	1.4-2.8	2.9-5.0	> 5.0
安定したクレアチニンに基づくステージ	犬 < 1.4 猫 < 1.6	犬 1.4-2.8 猫 1.6-2.8	犬 2.9-5.0 猫 2.9-5.0	犬 > 5.0 猫 > 5.0
SDMA* (μg/dL)	< 18	18-35	36-54	> 54
安定したSDMAに基づくステージ	犬 < 18 猫 < 18	犬 18-35 猫 18-25	犬 36-54 猫 26-38	犬 > 54 猫 > 38
UPC比 蛋白尿に基づくサブステージ	犬 非蛋白尿 < 0.2 猫 非蛋白尿 < 0.2	犬 境界的な蛋白尿 0.2-0.5 猫 境界的な蛋白尿 0.2-0.4	犬 蛋白尿 > 0.5 猫 蛋白尿 > 0.4	
収縮期血圧 (mm Hg) 血圧に基づくサブステージ	正常血圧 < 140	前高血圧 140-159	高血圧 160-179	重度の高血圧 ≥ 180

注：クレアチニンとSDMAでステージが異なる場合、患者の腎臓病を考慮すること。  
また、2〜4ヶ月間の経過を繰り返すこと、腎臓病の進行が持続すること、より高いステージを採用することをお勧めします。

獣医師 長崎 健人